

2019年8月期 上期業績 および通期見通し

岡崎 健

株式会社ファーストリテイリング
取締役 グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。
私から、2019年8月期上期の業績、および
通期の業績見通しについてご説明いたします。

上期決算概要	P3	～	P17
2019年8月期 通期業績予想	P18	～	P21
参考資料	P22	～	P24

【業績開示について】

- ・2014年8月期末より国際会計基準(IFRS)を適用、本資料上の数字については、すべてIFRSベースで記載しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
 - 国内ユニクロ事業： 国内ユニクロ事業の数値が表示されています。
 - 海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
 - ジーユー事業： 国内・海外で展開するジーユー事業が含まれています。
 - グローバルブランド事業： セオリー事業、プラステ事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、J Brand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

【連結】2019年8月期 上期実績

上期の営業利益は、過去最高を更新

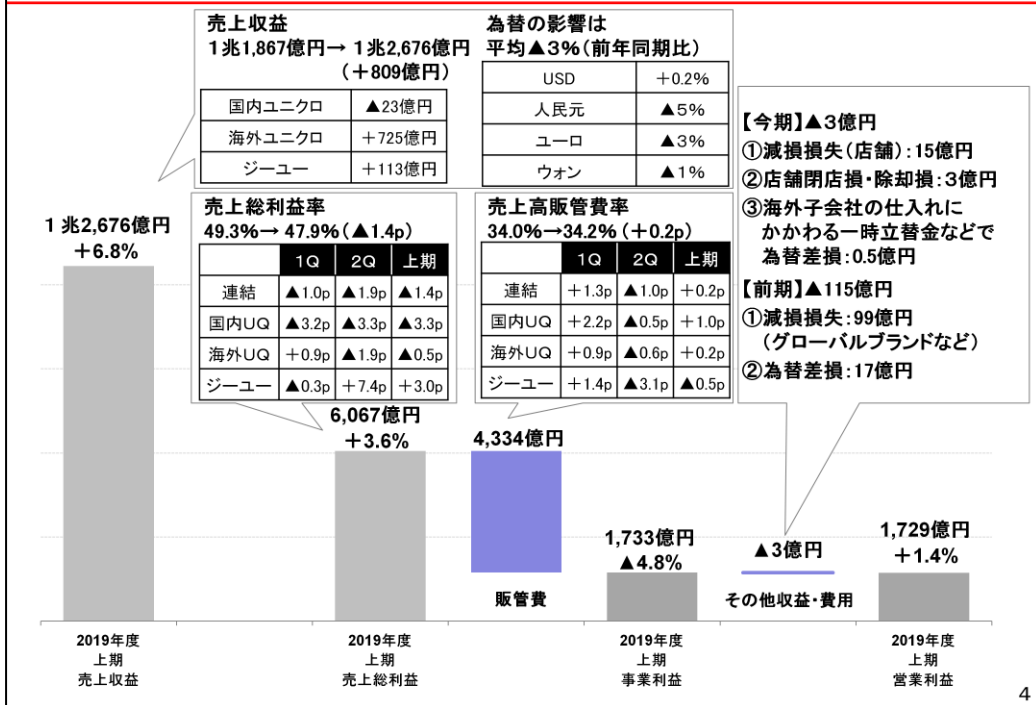
- ・国内UQの下振れが大きいですが、GUが大きく上回った。海外UQは好業績つづく
- ・連結ベースの営業利益は、計画に対して約100億円の下振れにとどまる

	2018年8月期	2019年8月期		単位:億円
	上期実績	上期実績	前年同期比	
売上収益 (売上比)	11,867 100.0%	12,676 100.0%	+6.8%	
売上総利益 (売上比)	5,856 49.3%	6,067 47.9%	+3.6% ▲1.4p	
販管費 (売上比)	4,036 34.0%	4,334 34.2%	+7.4% +0.2p	
事業利益 (売上比)	1,819 15.3%	1,733 13.7%	▲4.8% ▲1.6p	
その他収益・費用 (売上比)	▲115 -	▲3 -	-	
営業利益 (売上比)	1,704 14.4%	1,729 13.6%	+1.4% ▲0.8p	
金融収益・費用 (売上比)	▲52 -	12 0.1%	-	
税引前四半期利益 (売上比)	1,651 13.9%	1,742 13.7%	+5.5% ▲0.2p	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益 (売上比)	1,041 8.8%	1,140 9.0%	+9.5% +0.2p	

上期の連結業績ですが、
 売上収益は1兆2,676億円、前年同期比6.8%増、
 事業そのものの収益を示す事業利益は1,733億円、同4.8%減、
 営業利益は1,729億円、同1.4%増、
 親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,140億円、同9.5%増と、
 上期の営業利益は過去最高を更新いたしました。

暖冬の影響により、国内ユニクロ事業の営業利益が大幅な下振れとなりましたが、
 ジューン事業が計画を大きく上回ったこと、海外ユニクロ事業が増益と、
 好調な業績が続いたことから、連結ベースの営業利益は、
 計画に対して約100億円の下振れにとどまりました。

【連結】上期 営業利益



まず、連結の損益計算書のポイントをご説明いたします。

売上収益は、海外ユニクロ事業、ジーユー事業が大幅な増収となったことから、前年同期比809億円の増収となりました。

売上総利益率は、ジーユー事業で3.0ポイント改善した一方で、国内ユニクロ事業で3.3ポイント、海外ユニクロ事業で0.5ポイント低下したことにより、同1.4ポイント低下しております。

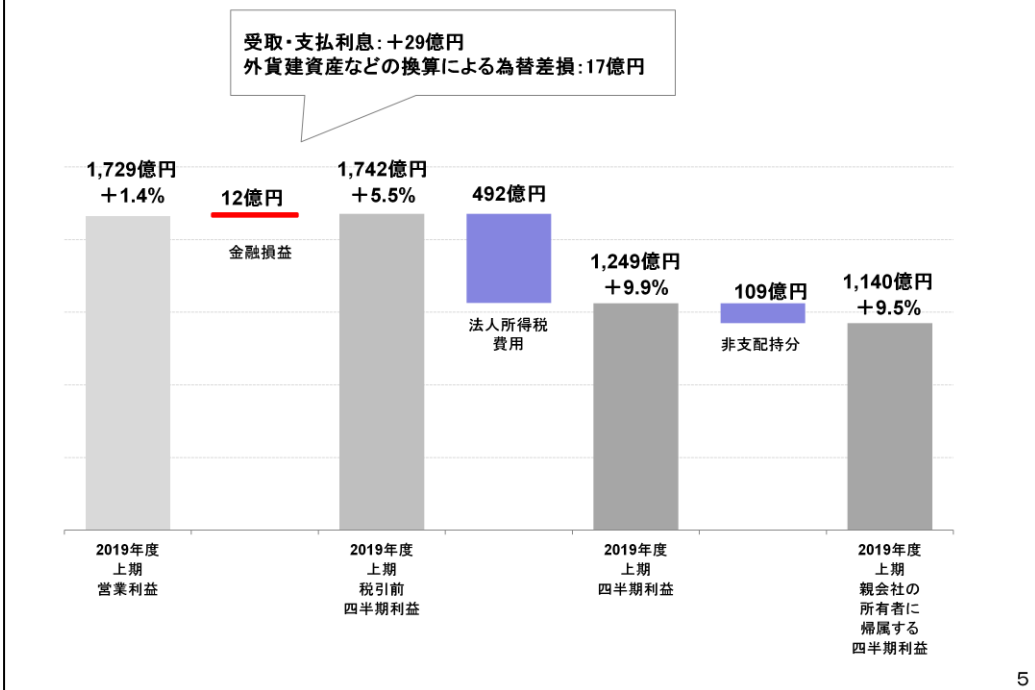
売上高販管费率は、ジーユー事業で0.5ポイント改善した一方で、国内ユニクロ事業で1.0ポイント、海外ユニクロ事業で0.2ポイント上昇したことにより、同0.2ポイント上昇しております。

事業利益は1,733億円と、同4.8%の減益となりました。

その他収益・費用の合計は3億円のマイナスと、前期の115億円のマイナスに比べ、大幅に改善しております。

この結果、営業利益は1,729億円、同1.4%増となりました。

【連結】上期 親会社の所有者に帰属する四半期利益



次に、金融損益ですが、ネットで12億円のプラスとなりました。

この結果、税引前四半期利益は1,742億円と同5.5%増、親会社の所有者に帰属する四半期利益は1,140億円、同9.5%増となりました。

【セグメント別】上期実績

		2018年8月期		2019年8月期		単位:億円
		上期実績	上期実績	前年同期比		
国内ユニクロ事業	売上収益	4,936	4,913	▲0.5%		
	事業利益 (売上比)	888 18.0%	676 13.8%	▲23.9%		
	その他収益・費用	▲1	1	-		
	営業利益 (売上比)	887 18.0%	677 13.8%	▲23.7%		▲4.2p
海外ユニクロ事業	売上収益	5,074	5,800	+14.3%		
	事業利益 (売上比)	808 15.9%	886 15.3%	+9.6%		
	その他収益・費用	▲1	▲1	-		
	営業利益 (売上比)	807 15.9%	884 15.3%	+9.6%		▲0.6p
ジーユー事業	売上収益	1,058	1,171	+10.7%		
	事業利益 (売上比)	90 8.5%	141 12.0%	+56.1%		
	その他収益・費用	1	0	▲95.5%		
	営業利益 (売上比)	91 8.6%	141 12.1%	+54.3%		+3.5p
グローバルブランド事業	売上収益	784	777	▲0.9%		
	事業利益 (売上比)	33 4.2%	32 4.2%	▲2.3%		
	その他収益・費用	▲89	▲1	-		
	営業利益 (売上比)	▲56 -	31 4.0%	-		

注: 国内ユニクロ事業の業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6ページのスライドは、セグメント別の業績です。

各セグメントの詳細については、次のスライドからご説明いたします。

【国内ユニクロ事業】上期実績

上期の営業利益は、前年同期比23.7%減益

- ・1Qは、暖冬の影響で冬物商品の販売が計画を下回る。上期の売上収益は計画を下回る
- ・2Qで値引販売を強化し、上期の粗利益率が計画以上に低下
- ・上期の経費は、生産性の向上により、金額ベースでは計画よりも削減

単位：億円

	2018年8月期 上期実績	2019年8月期	
		上期実績	前年同期比
売上収益 (売上比)	4,936 100.0%	4,913 100.0%	▲0.5%
売上総利益 (売上比)	2,415 48.9%	2,241 45.6%	▲7.2% ▲3.3p
販管費 (売上比)	1,526 30.9%	1,565 31.9%	+2.5% +1.0p
事業利益 (売上比)	888 18.0%	676 13.8%	▲23.9% ▲4.2p
その他収益・費用 (売上比)	▲1 -	1 0.0%	- -
営業利益 (売上比)	887 18.0%	677 13.8%	▲23.7% ▲4.2p

注：国内ユニクロ事業の業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

7

まず、国内ユニクロ事業の上期の業績ですが、売上収益は前年同期比0.5%減、営業利益は同23.7%減と、減収減益となりました。

第1四半期に、暖冬の影響で冬物商品の販売が計画を下回ったことから、上期全体の売上収益は、計画を下回りました。

また、第2四半期で値引販売を強化したことから、上期の粗利益率も計画以上に低下いたしました。

ただし、経費については、生産性の向上により、金額ベースでは計画よりも削減できております。

既存店売上高 上期▲0.9%(1Q▲4.3%、2Q+2.8%)

- ・1Q3ヶ月間は暖冬の影響により、防寒衣料の需要が弱く、既存店売上高は同4.3%減収も、2Q3ヶ月間では同2.8%増収と、増収に転じた
- ・12月、1月に気温が低下したことにより、ヒートテック、ダウン、フリースなどの冬物商品の販売が好調に推移
- ・2月には、スウェット、レギンスパンツ、ブロックテックのアウトターなどの春物商品が順調に立ち上がる
- ・上期のEコマースの売上は485億円、+30.3%、売上構成比は7.5%から9.9%に上昇。計画通り、好調に拡大

直営既存店 前年比	2019年8月期					
	1Q	12月	1月	2月	2Q	上期
売上高	▲4.3%	+5.2%	▲1.0%	+3.0%	+2.8%	▲0.9%
客数	▲1.8%	+4.3%	▲0.9%	+4.5%	+2.5%	+0.4%
客単価	▲2.5%	+0.9%	▲0.1%	▲1.4%	+0.2%	▲1.3%

8

国内ユニクロ事業の上期の既存店売上高は同0.9%の減収となりました。

第1四半期3ヶ月間は暖冬の影響により、防寒衣料の需要が弱く、既存店売上高は同4.3%減収となりましたが、第2四半期3ヶ月間では同2.8%増収と、増収に転じております。

上期のEコマースの売上は485億円、同30.3%増収、売上構成比は7.5%から9.9%に上昇し、計画通り、好調に拡大できております。

売上総利益率は45.6%、前年同期比3.3ポイント低下 計画を下回る水準

- ・社内の為替レートの円安傾向が続いているため、原価率が上昇
- ・第2四半期に、冬物商品の値引きを計画以上に強化

売上高販管費率は31.9%、前年同期比1.0ポイント上昇 生産性の向上により、金額ベースでは計画以上に削減

- ・物流費：店舗関連は、冬物商品の在庫増による増加
Eコマース関連は、Eコマース販売の売上構成比の上昇に伴う増加。ただし、有明倉庫の自動化により、1件あたりの物流費は低下、効率化が進む
- ・その他経費：有明PJに伴うIT投資が増加
ただし、RFIDを活用した棚卸の開始で委託費の削減、店舗のLED導入などによる水道光熱費の削減など、その他経費全体では、計画以上の削減
- ・減価償却費：有明倉庫の自動化、従来使用していたマテハンの一部で償却期間を短縮、店舗のLED導入
- ・人件費：待遇面の改善を継続も、RFIDの活用など店舗業務の改善により、生産性が向上

	売上比率 前年同期比
販管費合計	+1.0p
物流費	+0.5p
その他経費	+0.4p
減価償却費	+0.2p
広告宣伝費	+0.0p
賃借料	+0.0p
人件費	▲0.1p

売上総利益率は45.6%と、同3.3ポイント低下いたしました。

これは計画を下回る水準です。

粗利益率が前年同期比で低下した要因は、社内の為替レートの円安傾向が続いているため、原価率が上昇したこと、第2四半期に、冬物商品の値引きを計画以上に強化したためです。

売上高販管費率は31.9%と、同1.0ポイント上昇いたしました。

RFIDの活用などによる生産性の向上により、経費は金額ベースでは計画以上に削減できましたが、売上が計画を下回ったことから、経費比率は上昇いたしました。

経費比率が前年同期比で上昇した項目としては、物流費比率が同0.5ポイント上昇いたしました。

店舗関連の物流費は、冬物商品の在庫増により増加し、Eコマース関連の物流費は、Eコマース販売の売上構成比の上昇に伴い増加しております。ただし、有明倉庫の自動化により、1件あたりの物流費は低下し、効率化が進んでおります。

その他経費比率は、有明プロジェクトに伴うIT投資が増加したことで、同0.4ポイント上昇いたしました。

ただし、RFIDを活用した棚卸作業の開始による委託費の削減、店舗照明のLED導入などによる水道光熱費の削減など、その他経費全体では、計画以上にコストを削減することができました。

増収増益、好調な業績が続く 営業利益は計画通りの増益、順調に事業を拡大

- ・2Qに値引販売を強化、上期の粗利益率は計画を下回り、前年同期比で0.5ポイント低下
- ・上期の経費は、比率では同0.2ポイント上昇も、各地域での経費コントロールの強化や店舗における生産性の向上により、比率、金額ともに計画以上に削減
- ・地域別では、グレーターチャイナが2桁増益と、計画以上の好業績が継続
- ・韓国は増収増益
- ・東南アジア・オセアニア地区は、大幅な増収増益が継続
- ・米国は上期で黒字
- ・欧州の営業利益は前年並み

単位：億円

		2018年8月期		2019年8月期	
		上期実績		上期実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上収益	5,074		5,800	+14.3%
	事業利益 (売上比)	808 15.9%		886 15.3%	+9.6% ▲0.6p
	その他収益・費用	▲1		▲1	-
	営業利益 (売上比)	807 15.9%		884 15.3%	+9.6% ▲0.6p

10

次に、海外ユニクロ事業についてご説明いたします。

売上収益は前年同期比14.3%増、営業利益は同9.6%増の増収増益と、好調な業績が続いております。

上期の売上収益は計画を若干上回り、営業利益は計画通りの増益、順調に事業を拡大しております。

収益面では、第2四半期に値引販売を強化した結果、

上期の粗利益率は計画を下回り、同0.5ポイント低下いたしました。

一方で、上期の経費は、比率では同0.2ポイント上昇いたしました。各地域での経費コントロールの強化や、店舗における生産性の向上により、比率、金額ともに計画以上に削減することができました。

地域別では、グレーターチャイナが2桁増益と、計画以上の好業績が継続しております。

また、韓国は増収増益、東南アジア・オセアニア地区は大幅な増収増益が継続いたしました。

米国は上期で黒字となりました。

欧州の営業利益は前年並みとなりました。

**グレーターチャイナ: 中国大陸が好調で、2桁の増収増益
売上収益、営業利益ともに計画を上回る水準**

【中国大陸】営業利益は計画を上回り、約20%の増益を達成

- ・上期の既存店売上高(ECコマースを含まない)は計画を上回る増収。特に、2Q3ヶ月間の既存店売上高は2桁増収と、高い成長が継続。12月、1月は気温の低下に伴い、冬物商品の販売が好調。2月にはスウェットやUTなどの春夏商品が順調に立ち上がる
- ・上期のECコマース販売も好調で、約30%の増収、売上構成比は約20%
- ・収益面では、2Qに値引販売を強化、上期の粗利益率は前年並みにとどまるも、経費比率が改善したことにより、営業利益は計画を上回る、約20%の増益を達成

【香港・台湾】営業利益は減益

- ・第2四半期も引き続き気温が高かったことから、既存店売上高は減収
- ・売上が計画を下回ったことで、営業利益は減益

韓国: 計画通り、増収増益

- ・上期の既存店売上高は、12月以降の冬物商品の好調な販売に支えられ、計画通りの増収
- ・値引販売の強化により、粗利益率は低下したが、経費比率は改善

ここからは、地域別の業績について、お話をさせていただきます。

グレーターチャイナ全体の上期の業績ですが、香港、台湾は減益だったものの、中国大陸の業績が好調で、2桁の増収増益を達成いたしました。これは、売上収益、営業利益ともに計画を上回る水準です。

グレーターチャイナの現状と課題については、後ほどグレーターチャイナCEOの潘(パン)より詳しくご説明いたします。

次に韓国ですが、計画通り、増収増益となりました。上期の既存店売上高は、12月以降の冬物商品の好調な販売に支えられ、計画通りの増収となりました。収益面では、値引販売の強化により、粗利益率は低下いたしましたが、経費比率が改善したことから、営業利益は計画通り、増益となりました。

東南アジア・オセアニア:計画通り、大幅な増収増益

- ・東南アジアでは、UT、ショートパンツ、アンクルパンツなどの夏物商品の販売が好調、上期の既存店売上高はすべての国で増収が継続
- ・なかでも、インドネシア、フィリピンは、既存店売上高が2桁増収と好調
- ・2018年10月に、東南アジア最大のグローバル旗艦店、ユニクロマニラ店がオープン
フィリピンのみならず、東南アジア市場全体で、ユニクロのプレゼンスが一段と高まる

北米:米国は収益改善が継続、上期は黒字転換

- ・米国は、地域ごとの商品構成の見直し、販売計画の精度の改善により、カシミアセーター、プレミアムラムセーター、フリースなどの販売が好調、既存店売上高の増収トレンドが継続。Eコマースも高い伸び率が続く
- ・営業利益は黒字化、前年同期比では改善したが、計画に対しては若干下振れ

欧州:営業利益は計画を下回り、前年並み

- ・増収、事業利益は増益も、店舗の減損損失を10億円計上し、営業利益は前年並み
- ・エリア別では、特にロシア事業が好調で、既存店売上高は2桁増収、営業利益は前年同期比で倍増と、収益性が高まる
- ・ロシアを除くエリアでは、暖冬や政情不安の影響により、既存店売上高は若干の減収、営業利益は計画を下回る

12

東南アジア・オセアニア地区は、計画通り、大幅な増収増益となりました。東南アジアでは、UT、ショートパンツ、アンクルパンツなどの夏物商品の販売が好調で、上期の既存店売上高はすべての国で増収が継続しております。なかでも、インドネシア、フィリピンは、既存店売上高が2桁増収と、好調です。

次に北米ですが、米国は第2四半期も収益改善が継続し、上期は黒字に転換いたしました。

米国は、地域ごとの商品構成の見直し、販売計画の精度の改善により、カシミアセーター、プレミアムラムセーター、フリースなどの販売が好調で、既存店売上高の増収トレンドが継続しております。

また、Eコマースの売上も高い伸び率が続いております。

営業利益は黒字化し、前年同期比では改善しましたが、計画に対しては若干下振れしております。

欧州は増収、事業利益は増益となりましたが、店舗の減損損失を10億円計上したことから、営業利益は計画を下回り、前年並みにとどまりました。

エリア別では、特にロシア事業が好調で、既存店売上高は2桁増収、営業利益は前年同期比で倍増と、収益性が高まっております。

一方、ロシアを除くエリアでは、暖冬や政情不安の影響により、既存店売上高は若干の減収、営業利益は計画を下回りました。

計画を大きく上回る、大幅な増収増益を達成

- ・この秋冬の商売は、品番数を絞り、マストトレンドにフォーカスした商品構成にしたこと、TVCMやウェブ広告と連動させたマーケティングを行ったことにより、上期の既存店売上高は増収と、売上を回復軌道に乗せることができた
- ・素材を備蓄し、タイムリーな追加生産を実現したことで、機会ロスを最小化
- ・オーバーサイズスウェットやオーバーサイズニットといった秋冬のキャンペーン商品は、数百万点を販売する大ヒットとなり、全体の売上をけん引
- ・粗利益率(+3.0ポイント): 好調な販売、値引きのコントロール、素材の集約による原価率改善
- ・経費比率(▲0.5ポイント): 売上好調による経費比率の改善

単位: 億円

		2018年8月期		2019年8月期	
		上期実績		上期実績	前年同期比
ジーユー事業	売上収益	1,058		1,171	+10.7%
	事業利益	90		141	+56.1%
	(売上比)	8.5%		12.0%	+3.5p
	その他収益・費用	1		0	▲95.5%
	営業利益	91		141	+54.3%
	(売上比)	8.6%		12.1%	+3.5p

13

次に、ジーユー事業ですが、売上収益は前年同期比10.7%増、営業利益は同54.3%増と、計画を大きく上回る、大幅な増収増益を達成いたしました。

この秋冬の商売は、品番数を絞り、マストトレンドにフォーカスした商品構成にしたことに加え、TVCMやウェブ広告と連動させたマーケティングを行ったことにより、上期の既存店売上高は増収と、売上を回復軌道に乗せることができました。

また、素材を備蓄し、タイムリーな追加生産を実現したことで、機会ロスを最小化することもできました。

この結果、オーバーサイズスウェットやオーバーサイズニットといった秋冬のキャンペーン商品は、数百万点を販売する大ヒットとなり、全体の売上をけん引いたしました。

収益面では、上期の粗利益率が、同3.0ポイント改善しております。これは、好調な販売に加え、値引きのコントロール、素材の集約による原価率の改善によります。

また、上期の経費比率は同0.5ポイント改善いたしました。

この結果、営業利益は同54.3%増と、計画を大きく上回る、大幅な増益を達成いたしました。

セオリー事業は好調も、事業利益は減益

- ・売上収益、事業利益は計画を下回る
- ・営業利益は、前年の上期に、コントワー・デ・コトニエ事業などで減損損失を合計87億円計上したため、今期は黒字に転じる

【セオリー事業】 好調な増収トレンドが継続、営業利益は計画を上回る大幅な増益

- ・特に米国セオリーの業績が寄与

【プラステ事業】 増収、営業利益は若干の減益

- ・上期で12店舗の出店と、出店数の増加により経費が増加

【コントワー・デ・コトニエ事業】 計画以上の赤字

- ・販売不振が継続、値引販売が増加、事業利益段階の赤字幅が計画以上に拡大

【プリンセス タム・タム事業、J Brand事業】 赤字が継続

		2018年8月期		2019年8月期		単位: 億円
		上期実績		上期実績	前年同期比	
グローバルブランド事業	売上収益	784		777	▲0.9%	
	事業利益	33		32	▲2.3%	
	(売上比)	4.2%		4.2%		
	その他収益・費用	▲89		▲1	-	
	営業利益	▲56		31	-	
	(売上比)	-		4.0%		

14

次に、グローバルブランド事業についてご説明いたします。

売上収益は前年同期比0.9%減、事業そのものの収益を示す事業利益は同2.3%減と、計画を下回る結果となりました。

ただし、営業利益は、前年の上期に、コントワー・デ・コトニエ事業などで減損損失を合計87億円計上したため、今期は黒字に転じております。

事業別では、セオリー事業は好調な増収トレンドが継続し、営業利益は計画を上回る大幅な増益となりました。

特に米国セオリーの業績が寄与しております。

コントワー・デ・コトニエ事業は、販売不振が続いており、値引販売が増加した結果、事業利益段階の赤字幅が計画以上に拡大いたしました。

単位：億円

	2018年2月末	2018年8月末	2019年2月末	前年同期末比
資産合計	16,215	19,534	20,152	+3,936
流動資産	12,951	16,180	16,663	+3,712
非流動資産	3,263	3,353	3,488	+224
負債合計	7,867	10,506	10,057	+2,190
資本合計	8,347	9,027	10,094	+1,746

15ページのスライドは、2019年2月末のバランスシートの概要です。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

流動資産の増加 +3,712億円(1兆2,951億円⇒1兆6,663億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +2,624億円(8,486億円⇒1兆1,110億円)
2018年12月に300億円の社債償還の一方で、2018年6月に2,500億円の社債発行、営業CF増加
- ・棚卸資産の増加: +1,095億円(2,695億円⇒3,791億円)
前期末(2018年8月末)に実施した、在庫の計上タイミングの変更の影響が合計646億円(国内UQ:491億円、GU:155億円)。この影響を除くと、実質的には+448億円(従来は、国内倉庫から店舗へ商品を出庫した時点で、在庫としてBSに計上。2018年8月期末より商社との契約の一部変更に伴い、海外から国内倉庫に到着した時点でBSに計上)
【国内UQ】+163億円 暖冬による販売不振に伴い、防寒衣料の在庫が増加。やや過剰感はあるが、通年で販売しているコア商品のため、大きな問題はない
【海外UQ】+319億円 店舗数増(+150店舗)、冬物コア商品の在庫増、春夏の早期立ち上げ
【GU】▲53億円 売上回復、在庫管理が改善 【グローバルブランド】+19億円
- ・デリバティブ金融資産の増加: +299億円(85億円⇒384億円)
保有する為替予約の平均レートが、2月末の為替レートより円高となったためヘッジ会計を適用していることから、損益への影響はなし

負債の増加 +2,190億円(7,867億円⇒1兆57億円)

- ・長期金融負債の増加: +2,565億円(2,426億円⇒4,992億円)
2018年6月 総額2,500億円の社債を発行

16

資産の大半を占める流動資産が、前年同期末比3,712億円増加した主な要因をご説明いたします。

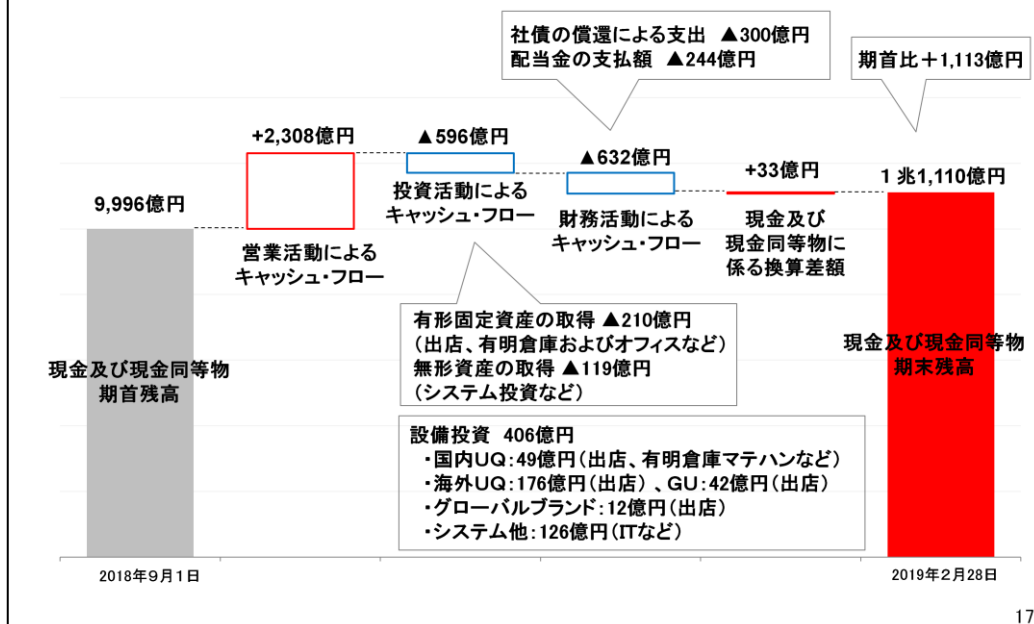
まず、現金及び現金同等物は、同2,624億円増加いたしました。これは、2018年12月に300億円の社債を償還した一方で、2018年6月に2,500億円の社債を発行したこと、営業キャッシュフローが増加したことなどによります。

次に、棚卸資産は、同1,095億円増加しております。これは、前期末に実施した国内ユニクロ事業およびジーユー事業における、在庫の計上タイミングの変更に伴う影響が合計646億円含まれているため、この影響額を除くと、実質的には同448億円の増加となります。

内訳として、国内ユニクロ事業の棚卸資産の実質的な増加は、同163億円でした。これは、暖冬による販売不振に伴い、防寒衣料の在庫が増加したことによります。在庫水準にやや過剰感はありますが、これらの在庫は通年で販売しているコア商品のため、大きな問題はありません。

海外ユニクロ事業は、同319億円増加いたしました。これは、店舗数の増加に加え、暖冬の影響による冬物コア商品の在庫増、春夏商品の早期立ち上げによります。ジーユー事業は、売上が回復すると同時に、在庫は同53億円の減少と、在庫管理が改善しております。

【連結】上期 キャッシュ・フロー



次に、上期のキャッシュ・フローですが、
 営業活動によるキャッシュ・フローは、2,308億円の収入、
 投資活動によるキャッシュ・フローは、596億円の支出、
 財務活動によるキャッシュ・フローは、632億円の支出となった結果、
 2019年2月末における現金及び現金同等物の期末残高は1兆1,110億円と
 なりました。

通期は過去最高の業績を予想

- ・上期の下振れを反映し、事業利益、営業利益でそれぞれ100億円の減額修正
- ・下期の連結業績予想は、直近予想から変更せず
- ・ジーユーは増額、グローバルブランドは減額、国内UQ・海外UQは変更せず

売上収益 : 2兆3,000億円 前期比 +8.0%
営業利益 : 2,600億円 前期比 +10.1%

単位: 億円

	2018年8月期 通期実績	2019年8月期 直近予想 (1/10時点)		2019年8月期 修正予想 (4/11)		2019年8月期 上期 実績
			前期比		前期比	
売上収益 (売上比)	21,300 100.0%	23,000 100.0%	+8.0%	23,000 100.0%	+8.0%	12,676 100.0%
事業利益 (売上比)	2,524 11.9%	2,750 12.0%	+8.9% +0.1p	2,650 11.5%	+5.0% ▲0.4p	1,733 13.7%
その他収益・費用	▲162	▲50	-	▲50	-	▲3
営業利益 (売上比)	2,362 11.1%	2,700 11.7%	+14.3% +0.6p	2,600 11.3%	+10.1% +0.2p	1,729 13.6%
金融収益・費用	64	0	-	0	-	12
税引前利益 (売上比)	2,426 11.4%	2,700 11.7%	+11.3% +0.3p	2,600 11.3%	+7.1% ▲0.1p	1,742 13.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,548 7.3%	1,650 7.2%	+6.6% ▲0.1p	1,650 7.2%	+6.6% ▲0.1p	1,140 9.0%

18

次に、2019年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

売上収益は2兆3,000億円、前期比8.0%増、
 事業利益は2,650億円、同5.0%増、
 営業利益は2,600億円、同10.1%増、
 親会社の所有者に帰属する当期利益は1,650億円、同6.6%増を見込んでおります。

これは、上期の業績の下振れを反映させた結果、1月10日に発表した直近予想に対し、
 事業利益、営業利益でそれぞれ100億円の減額修正となっております。
 ただし、通期の営業利益2,600億円は過去最高益となる見込みです。

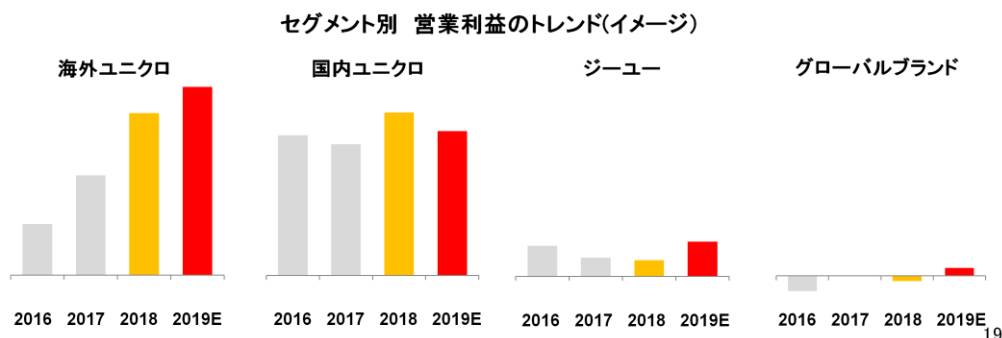
下期の連結業績予想は、直近予想から変更してはおりませんが、
 足元の販売動向を踏まえ、ジーユー事業は増額修正、
 グローバルブランド事業は減額修正、国内ユニクロ事業と海外ユニクロ事業は
 直近予想通りとなっております。

なお、その他収益・費用のマイナス50億円は、上期に発生した店舗の減損損失、
 閉店損に加え、下期に海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業での店舗閉店に
 伴う除却損・閉店損などを見込んでおります。

また、上期に金融収益・費用で12億円のプラスを計上しておりますが、
 為替動向が不透明なことから、為替の前提は期初の為替レート1ドル111円から
 変更してはおりません。

海外ユニクロ事業：下期は増収、大幅な増益を見込む

- ・グレーターチャイナ全体で大幅な増収増益となる予想。香港、台湾はほぼ前年並み、中国大陸の高成長が継続する見込み
- ・東南アジア・オセアニア地区は増収増益が継続する見込み
- ・韓国は前年のハードルが高いことから、ほぼ前年並みの業績を見込む
- ・米国は、下期の収益性の改善を見込み、通期の営業利益は黒字化する計画
- ・欧州は増収増益の見込み
- ・海外ユニクロ事業の通期は、大幅な増収増益を見込む



次に、セグメント別の下期の業績予想について、ご説明いたします。

まず、海外ユニクロ事業の下期は、増収、大幅な増益を見込んでおります。エリア別では、グレーターチャイナで大幅な増収増益、東南アジア・オセアニア地区も増収増益と高い成長が継続する見込みです。また、米国の通期の営業利益は黒字化する計画です。

これらの結果、海外ユニクロ事業の通期は、大幅な増収増益を見込んでおります。

国内ユニクロ事業：下期は増収、大幅な増益を見込む

- ・下期の既存店売上高は2.5%の増収、うち、Eコマースの売上は約30%の増収を見込む
- ・粗利益率は、原価率の低下、値引率のコントロールにより改善する見込み
- ・経費比率は、店舗の生産性の向上による人件費の効率化などで改善を予想
- ・上期の減益幅が大きかったことから、通期は減益の見込み
- ・通期の粗利益率は前年比で若干の低下、経費比率は前年並みの見込み

ジーユー事業：下期は増収、大幅な増益を見込む

- ・3月の既存店売上高は増収を継続、下期も上期同様の強い業績回復を見込む
- ・マストトレンドへフォーカス、マーケティングの強化、売れ筋商品の追加生産への対応を強化
- ・値引きのコントロールによる粗利益率の改善、在庫の効率化と人時生産性の改善
- ・通期でも増収、大幅な増益を予想

グローバルブランド事業：下期は増収増益の見込み

- ・セオリー事業、プラステ事業は増収増益の計画
- ・その他の事業は前年並みの赤字が継続する見込み

国内ユニクロ事業の下期は、増収、大幅な増益を見込んでおります。

下期の既存店売上高は2.5%の増収を予想し、このうち、Eコマースの売上は約30%の増収を見込んでおります。

粗利益率、経費比率は、ともに改善することを予想しております。

下期は大幅増益となるものの、上期の減益幅が大きかったことから、国内ユニクロ事業の通期は減益となる見込みです。

ジーユー事業の下期は、増収、大幅な増益を見込んでおります。

3月の既存店売上高は増収と、売上回復基調が続いており、

下期も上期同様の強い業績回復を見込んでおります。

この結果、ジーユー事業は通期でも増収、大幅な増益を予想しております。

2019年8月期 配当金予想

中間配当金 240円を予定
年間配当金 480円を予想

	1株当たり配当金		
	中間	期末	通期
2017年8月期	175円	175円	350円
2018年8月期	200円	240円	440円
2019年8月期（4/11予想）※	240円	240円	480円
前年比	+40円	±0円	+40円

※ 2019年8月期の中間配当については4月11日開催の取締役会にて決議しております。
 なお、業績や資金需要に大きな変動が生じた場合、期末配当金額を変更することがあります。

最後に、2019年8月期の1株当たり配当金についてご説明いたします。
 本日の取締役会にて、中間配当金を、1株当たり240円と決議いたしました。
 これは前年に比べ、40円の増配となっております。

また、期末配当金についても、1株当たり240円を予想しております。
 この結果、年間の配当金は、直近の予想通り、1株当たり480円、
 前年に比べ40円の増配を予想しております。

以上で私からの説明を終わります。ありがとうございました。

<参考資料> 連結対象事業別出退店 実績

【単位:店舗】	18年8月期	2019年8月期(2018/9~2019/2)実績				2019年8月期(2018/9~2019/8)予想			
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	2,068	99	31	+68	2,136	213	47	+166	2,234
国内ユニクロ事業:※	827	14	16	▲2	825	30	30	0	827
直営店	784	12	14	▲2	782	-	-	-	-
大型店	215	8	3	+5	220	-	-	-	-
標準店等	569	4	11	▲7	562	-	-	-	-
FC	43	2	2	0	43	-	-	-	-
海外ユニクロ事業:	1,241	85	15	+70	1,311	183	17	+166	1,407
中国	633	44	4	+40	673	-	-	-	-
香港	28	0	0	0	28	100	-	-	-
台湾	65	3	1	+2	67	-	-	-	-
韓国	186	5	5	0	186	9	-	-	-
シンガポール	26	2	1	+1	27	-	-	-	-
マレーシア	48	0	1	▲1	47	-	-	-	-
タイ	40	4	0	+4	44	50	-	-	-
フィリピン	51	6	1	+5	56	-	-	-	-
インドネシア	18	3	0	+3	21	-	-	-	-
オーストラリア	15	1	0	+1	16	-	-	-	-
米国	48	3	1	+2	50	10	-	-	-
カナダ	5	4	0	+4	9	-	-	-	-
英国	11	0	0	0	11	-	-	-	-
フランス	25	1	0	+1	26	-	-	-	-
ロシア	31	4	1	+3	34	-	-	-	-
ドイツ	5	4	0	+4	9	14	-	-	-
ベルギー	3	0	0	0	3	-	-	-	-
スペイン	2	0	0	0	2	-	-	-	-
スウェーデン	1	0	0	0	1	-	-	-	-
オランダ	0	1	0	+1	1	-	-	-	-
ジーユー事業	393	21	6	+15	408	46	16	+30	423
グローバルブランド事業合計	984	37	30	+7	991	57	59	▲2	982
セオリー事業※	450	20	13	+7	457	-	-	-	-
PLST事業※	87	12	2	+10	97	-	-	-	-
コトワ…・デ・コトニエ事業※	320	5	13	▲8	312	-	-	-	-
プリンセス タム・タム事業※	127	0	2	▲2	125	-	-	-	-
総 合 計	3,445	157	67	+90	3,535	316	122	+194	3,639

注:ミナ事業、グラミンユニクロ事業は含まない ※フランチャイズ店は含む

連結決算取込 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2018年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)実績	111.7	133.1	150.0	17.0	10.1
2019年8月期 第2四半期(6ヶ月平均)実績	111.9	128.5	144.2	16.3	10.0
2018年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.3	131.5	148.8	16.9	10.1
2019年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	110.0	128.0	146.0	16.3	10.0

バランスシート適用 為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2018年8月期 第2四半期末為替レート 実績	107.4	131.3	149.3	17.0	10.0
2019年8月期 第2四半期末為替レート 実績	110.9	126.1	147.7	16.6	9.9
2018年8月期 期末為替レート 実績	111.1	129.5	144.6	16.2	10.0
2019年8月期 期末為替レート 予想	111.1	129.5	144.6	16.2	10.0

設備投資(ファイナンス・リース含む)・減価償却費

単位: 億円

	設備投資						減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	ジーユー	グローバル ブランド	システム他	合計	
2018年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	49	110	24	13	70	268	217
2019年8月期 第2四半期実績(6ヶ月累計)	49	176	42	12	126	406	240
2018年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	99	263	45	27	258	693	450
2019年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	81	353	82	26	298	840	511